



聴覚障害教育支援センター通信

新春号

滋賀県立聾話学校 聴覚障害教育支援センター
発行: 令和7年(2025年)1月16日(木)

新しい一年が始まりました。今年の干支は「へび(巳)」です。へびは古くから豊穡の神・天候の神として信仰の対象とされてきました。また、脱皮をするへびは「復活と再生」を連想し、不老長寿や強い生命力につながる縁起のいい動物と考えられています。



へびにまつわる言葉もたくさんありますね。身近なものであれば、「蛇口」。童謡では「あめふり」の中に出てくる「じゃのめでおむかえ うれしいな」。これも「蛇の目傘(じゃのめがさ)」で、「へび」にまつわる言葉がありますね。「蛇(じゃ)の道は蛇(へび)」など、ことわざや慣用句もたくさんあります。今年は、「へび」にまつわる言葉を調べたり、日常生活の中で意識的に使ってみたりしてはいかがでしょうか？



寒さの厳しい冬。こんな季節は室内で映画を見たり、本を読んだりしてはいかがでしょうか？新春号では、おすすめの映画や本の紹介をしたいと思います。

映画「ぼくが生きてる、ふたつの世界」監督 呉美保 /主演 吉沢亮 /脚本 港岳彦

この映画は昨年秋に公開され、五十嵐大さんの「ぼくが生きてる、ふたつの世界」(幻冬舎文庫)をもとに、映画化されました。著者である五十嵐大さんは、聞こえない両親のもとに生まれ、物語は、親子の葛藤がぬくもりをもった温度感で丁寧に描かれています。ぜひ、インターネットで検索してみてください。



(公式 HP より)

育児まんが日記 せかいはことば 著者 斎藤陽道/ナナクロ社

この「育児まんが日記」は、著者である斎藤陽道さんの手話のある生活と子どもたちの「ことば」の成長を記録した育児日記です。とてもかわいいイラストで楽しい育児の様子がユーモアたっぷりに描かれています。

せかいはことばで満ちている。そう実感したのは、3才になった長男がいろいろなものを見ては、まねて、伝えるようになった時からです。走る犬を見て、犬になりきる。風のちがいを感じわけて、手の動きを変える。腹ペコのとき、切ない顔でおなかをなでる。目の前に広がるいろいろなものを感じ、見つめ、まねて、自分のからだで表す。それがもうすでに「ことば」なのだと知りました。(本書より一部抜粋)

※本号は、あくまでも情報提供であり、利用者個人の責任においてご利用くださいますようお願いいたします。

